

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 26 年度第 7 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 26 年 12 月 8 日 (月)
午後 3 時 15 分から午後 6 時 30 分
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 3 階 336 号室
(東京都文区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 15 名 (定足数 11 名 会議成立)
オブザーバー 8 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員
理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 木村 学
理事 中村 正人
理事 北 和之
理事 高橋 幸弘 (skype 出席)
理事 瀧上 豊
理事 田中 賢治
理事 成瀬 元
理事 西 弘嗣
理事 畠山 正恒
理事 浜野 洋三
理事 古村 孝志
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
監事 北里 洋
監事 鈴木 善和
監事 松浦 充宏
6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 佐々木 晶
大気水圏科学セクションプレジデント 中島 映至
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
地球人間圏セクションバイスプレジデント 春山 成子
宇宙惑星科学セクション幹事 吉川 顕正

午後 3 時 15 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 **skype** を利用し、東京大学理学部 1 号館と北海道大学とで同時に会議に参加できるようにし、審議を確実に行うことができることを互いに確認した。審議に先立ち、木村学理事より報告事項として「学術の動向と学術会議報告」の提案があり、全会一致でこれを承認した。続いて、以下の議事について、逐次審議に入った。

7. 報告事項

(1) 学術の動向と学術会議報告 木村 学理事 北里 洋監事 資料 P.1

木村 学理事より学術の最新動向についての報告と学術会議の活動報告があった。学術会議は理科教育の見直しを進めている。これにあわせた地球惑星科学の教育についても検討していく必要がある。

また、国際科学会議による **Future Earth** に対し、学術会議全体で取り組んでいる。第 23 期学術会議地球惑星科学委員会は、大久保 修平委員長、藤井 良一副委員長、高橋 桂子幹事、中村 尚幹事、木村 学委員、川口 淳一郎委員、山川 充夫委員の体制である。

北里 洋監事より、オープンアクセス **e** ジャーナルの動向について報告があった。欧米ではオープンアクセス化に対し国を挙げて取り組んでいる。日本は取り組みが遅れているが、科学技術振興機構、日本学術振興会、文部科学省が検討を始めている。

(2) 委員会・セクション活動報告

(2-1) 古村 孝志理事 職務報告 総務委員会活動報告 資料 P. 2-5

本年度の協賛等について報告があった。前回理事会以降、協賛を許諾したものが 1 件、またそれ以外に現在審議中のものが 3 件ある。

また、連合が用いる各用語の英語対応表を準備中である。総務委員会が作成した草案に対し意見を募っていた。当該委員会等で検討し決定したものもあるが、それ以外のものについては今週末を目途に再度意見を募集し、特に意見の無いものは総務委員会によって決定することとした。

(2-2) 川幡 穂高理事 職務報告 ジャーナル編集委員会活動報告 資料 P. 6-18

ジャーナルの状況に関して報告があった。11 月 7 日に日本学術振興会による実地検査が

あった。資料の整理もよく、合格との評価を得た。

11月19日に第5回編集長会議を開催した。トムソン・ロイターWeb of Scienceの登録準備を進めている。AGUやEGUをはじめ、各地より推薦状を貰い受けた。しかしさらなる論文出版数を確保してからの登録が望ましいため、SPRINGER本社のWeb of Scienceの登録申請担当者のコメントを尊重し、時期の見直しを検討した。また来年度の編集体制について、検討した。

(2-3) 浜野 洋三理事 高橋 幸弘理事 職務報告 大会運営委員会活動報告 資料 P. 19-25

2015年の大会準備状況について報告があった。セッション提案が締切となり、プログラム委員による調整の末、セッションが確定した。特にユニオンセッションについては、本年から採択を厳選することとした。理事会として、ユニオンセッションを承認した。この後セッションデータの修正を待ち、webでの一般公開となる。

高橋理事より、e-Posterの試験的实施について説明があった。e-Posterはインターネット電話やデジタルサイネージを用いて、日本へ渡航せずに行えるポスター発表である。2015年大会では試験的な実施とし、試験に参加するセッションを募る。

また、2016年以降の連合大会の準備状況についても報告があった。2016年については、会期の前半3日間しかAPAホテルに空きが無く、2017年については予定会期とは一週間ずれた5月27日からとなる。この問題については幕張メッセおよびAPAホテル側と調整中である。

(2-4) 高橋 幸弘理事 職務報告 キャリア支援・男女共同参画委員会活動報告

キャリア支援委員会および男女共同参画委員会の活動について報告があった。12月3日、4日の国立極地研究所シンポジウムにあわせ、キャリア支援委員会、男女共同参画委員会が主催となって「JpGU 若手研究者のためのミニ就活シンポ」を開催した。キャリア支援委員会坂野井和代副委員長、株式会社アカリク長井裕樹氏による講演を行った。

また、このシンポジウムの結果を踏まえ、2015年大会では坂野井和代副委員長がコンピナーを務めるパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催する。

(2-5) 村山 泰啓理事 職務報告 情報システム委員会活動報告

情報システム委員会の活動について報告があった。一斉メールシステムに障害があり、システム会社のサーバ変更後、一部の会員にメールニュースが届かないという現象が起きている。一部のエラーについては解決済みであるが、不明瞭な点が残っているものもあるため、引き続き調査、対応する。

(2-6) 中村 正人理事 成瀬 元理事 職務報告 顕彰委員会活動報告 資料 P. 26-37

顕彰委員会ならびに顕彰関連の活動について報告があった。前回第 6 回理事会にて顕彰委員会の設置が承認されたことを受け、委員の推薦を募った。

2015 年度フェロー候補者の募集を引き続き行っている。また 2014 年度地球惑星科学振興西田賞の候補者についても募集を行っている。

推薦依頼のあった、日立環境賞について、候補者の募集を募ったところ、1 名の推薦があった。理事会として、顕彰委員会の判断を支持することとなったため、顕彰委員会が推薦を決定する。ただし、候補者の申請書類に、既存の研究についての言及があるほうが望ましいとの提案があり、顕彰委員会より候補者に依頼をすることとなった。

学生優秀発表賞審査小委員会の委員も、前回第 6 回理事会での設置以降検討した。これまでセクションからの代表として実務に当たっていた、佐々木 晶プレジデント（宇宙惑星科学）、田中 博会員（大気水圏科学）、須貝 俊彦幹事（地球人間圏科学）、成瀬 元理事（固体地球科学）、北村 晃寿会員（地球生命科学）に決定した。

なお、顕彰関連として、地球惑星科学振興西田賞審査委員会についても活動報告があった。11 月 25 日に第 1 回委員会を開催し、審査の方法などを議論した。

(2-7) 木村 学理事 職務報告 グローバル戦略委員会活動報告 資料 P. 38-39

グローバル戦略委員会について活動報告があった。12 月 2 日にグローバル戦略委員会会議が行われた。

(2-8) 大谷 栄治プレジデント 固体地球科学セクション活動報告 資料 P. 41-47

固体地球科学セクションの活動について報告があった。本年 8 月、SEDI のシンポジウムを開催した。固体地球科学セクションとしてフォーカスグループを作りこれにあたった。

固体地球科学セクションの web を充実させている。セクションのニュースやフォーカスグループ、大会でのセッションなど、さまざまな情報を載せている。

また、セクションボードを強化し新たなボードメンバーを迎えた。今後もフォーカスグループやボードの更なる強化を計画している。

8. 審議事項

第 1 号議案 会員（正会員）入会承認の件（古村 孝志理事）資料 P.48-49

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件（古村 孝志理事）資料 P. 50

顕彰委員会委員として、中村 正人理事、成瀬 元理事、諸田 智克会員、渡部 重十会員、飯田 真一会員、田中 博会員、奥村 晃史理事、須貝 俊彦会員、ウォリス サイモン理事、

川勝 均会員，磯崎 行雄会員，真鍋 真会員の計 12 名を，キャリア支援委員会委員として，杉田 律子会員を，グローバル戦略委員会として，中村 尚会員を，教育検討委員会委員として川合 美千代会員，奥山 康子，小谷 亜由美会員，大園 真子会員，飯田 和明会員，熊原 康博会員の計 6 名を，それぞれ承認した。

第 3 号議案 委員の資格について （高橋 幸弘理事）

連合の委員会委員を大学院生に委嘱する際の手続きについて審議した。定款 49 条や法人運営規則第 17 条など関連規則には，大学院生に委員を委嘱することを制限している規則はない。しかし学生という身分を考慮すると，指導教員等の許可を得たほうが望ましい。検討の上，大学院生に委員会委員を委嘱する際には，指導教員等の許可を示す書類を要請することとなった。書式等については高橋理事が雛形を準備する。

第 4 号議案 地球惑星科学振興西田賞規則改正の件 （中村 正人理事）資料 P.51-55

地球惑星科学振興西田賞規則の改正を以下の通り審議した。いずれも内容に抵触するものではなく，書類の内容や構成をよりわかりやすくするための文言修正である。

（趣旨）を第 1 条とし，以下順送りに訂正する。第 4 条を「選考対象は他薦または自薦による候補者とする。候補者は会員・非会員を問わない。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者 1 名が、自薦の場合は本人が、以下の内容が記載された推薦書類（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。」とする。〔推薦書類の構成〕を挿入し，(4)を「推薦理由書（A 4 で 6 ページ以内、日本語あるいは英語）自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成する。」と訂正する。(5)を「2 通のサポートレター（自薦の場合は本人以外の 2 名、他薦の場合は推薦者以外の 2 名が、日本語あるいは英語により作成する。いずれの場合もサポートレターを作成する 2 名については会員・非会員を問わない。）」とする。

以上を審議し，満場一致で承認した。

第 5 号議案 平成 27 年度事業計画について （古村 孝志理事）資料別添

来年度の事業計画書の作成に向け，各委員会，セクションに事業計画の提出を求めた。予算申請時のもの及び本年度の文章を元に仮にまとめた草案が示され，これを元に更新し作成する。今後事務局と総務委員会が取りまとめる。

第 6 号議案 平成 27 年度予算について （北 和之理事）資料別添

平成 27 年度の予算計画について，検討中の予算案を確認した。予想される収支について確認した。検討中の予算案を踏まえ，最終予算作成まで財務委員会により検討することとなった。

第7号議案 大会におけるAGU会員の取り扱いについて (木村 学理事) 資料 P.56

連合とAGUとはMOUを結んでおり、連合の会員はAGUの大会に会員価格で参加でき、またAGUの会員も連合大会に会員価格で参加できる。しかし現状、AGUの会員は連合会員でなくても、連合大会で発表する際に会員価格が適用されるのに対し、連合の会員がAGUの大会で発表する際には、AGU会員で無い場合は、非会員価格となる。これを是正し、AGUの会員が連合大会で発表(筆頭著者もしくは筆頭セッションコンビーナ)する際に、会員価格を適用するためには、連合会員である必要がある、という運用とすることを審議し、承認した。

第8号議案 AGUとの会議について (木村 学理事) 資料 P.57 および別紙

15日に予定されているAGUとの会議について、議論した。2017年大会でのジョイントミーティング実現に向けた条件等の折衝に向け、AGU側の要求について検討した。

100,000ドルおよび旅費20,000ドルが要求されているが、その内訳の提出を依頼し、吟味する必要がある。支払いについては公益社団法人として問題のないよう、関連法規に則った条件の下での契約とするように準備することをAGUに伝える。旅費については実費での支払いとする。以上の条件でAGUと交渉する。ただしこの会議においては、グローバル委員会に交渉を一任する。

第9号議案 その他 (瀧上 豊理事)

2016年の地学オリンピック第10回日本大会について、寄付金(協賛金)の募集を受け付けていることが説明され、連合からの支援について要請があった。2015年3月までに文部科学省に寄付金を報告する必要があるため、2015年度または2016年度の予算に組み込んで欲しい。引き続き審議することとした。

平成26年12月8日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第7回理事会

出席理事 津田 敏隆 印

出席理事 川幡 穂高 印

出席理事 木村 学 印

出席理事 中村 正人 印

出席理事	北	和之	印
出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	田中	賢治	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	畠山	正恒	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	村山	泰啓	印